

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	向居 暁	2025年6月 予定	1811 地域文化 共同研究室 またはオンライン 会議	テーマ： 国際共生コースポリシー共有ワークショップ ―アウトリーチ対応の共通理解―
				実施目的：新コースのディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシーを全教員が共通理解し、高校説明会・訪問で一貫した説明ができるようにする。
				キーワード： 多文化共生、文化継承、ウェルビーイング、入試広報、アウトリーチ
				実施内容： 1. 再編委員・入試広報委員によるポリシー概要説明 2. DP・CPを高校生向けラーニングアウトカムに変換し、担当科目へひも付けるグループ作業 3. 高校向け説明スクリプト案・想定Q&Aのグループディスカッション 4. 共有・次回までの課題整理
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	向居 暁	2025年9月 予定	1811 地域文化 共同研究室 またはオンライン 会議	テーマ： 国際共生コース カリキュラム設計ワークショップ ―ポリシー整合と教育課程最適化―
				実施目的：DP・CP・APで掲げた学修成果を実現できる教育課程表・ルーブリックを教員共同でブラッシュアップし、次年度シラバス改訂につなげる。
				キーワード： カリキュラムマッピング、科目ルーブリック、地域創生人材、国際共生、教育改善
				実施内容： 1. 既存カリキュラムと新ポリシーのギャップ確認（事前配布資料レビュー） 2. カリキュラムマッピング（科目×学習成果）グループワーク 3. 科目ルーブリック・科目配置案の共有とフィードバック 4. 改訂スケジュール・担当分担確認

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (経営分野)	村上 恵子	通年 第2水曜日 コース会議後	1616 演習室	<p>テーマ： 学部再々編後の経営コース教育課程表の見直しと学生の学修支援に役立つ履修モデルの検討</p> <p>実施目的： 令和8年度から経営コースでの教育及び学修支援をスムーズに行えるよう、学部再々編後の経営コースの3つのポリシーと養成する人材像、各専門科目の具体的な内容を踏まえて、経営コースの教育課程表の見直しと学生の学修支援に役立つ履修モデルの検討を行う。</p> <p>キーワード： 教育課程表、3つのポリシー、履修モデル</p> <p>実施内容： 令和8年度の学部再々編に伴い、経営コースでは令和6年度中に本コースの3つのポリシーと養成する人材像を踏まえて教育課程表の一次案を策定した。令和7年度は、各専門科目の具体的な内容をコース教員間で共有した上で開講期を中心に経営コースの教育課程表一次案を見直し、教育課程表を確定する。また、学生の体系的な学修の支援に役立つ履修モデルを検討する。</p>
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (情報分野) (経営情報学部 経営情報学科)	富田哲治 折本寿子 佐々木宣介 重丸伸二 陳訓泉	4月上旬, 9月下旬, 11月~12月, その他必要 に応じて随時	広島キャンパス 内の教室および 研究室	<p>テーマ： PBL等のICT応用能力を育成する教育プログラムへの学生参加促進</p> <p>実施目的： 地域産業コース情報分野が提供するPBL等により学生のICT能力の育成を目的の一つとした教育プログラムへの参加を促進する。</p> <p>キーワード： PBL, IoT・AI, 応用基礎レベル</p> <p>実施内容： 地域産業コースのカリキュラムは情報学の基礎から応用までを学べる教育プログラムになっている。その中でも、PBL等による学生のICT能力育成を目的の一つとした講義・演習や、IT系企業と連携した学内インターンシップがある。これらの教育プログラムへの参加を促進することで、実践的なICT能力を備えた学生を育成する。参加促進のため、年度はじめオリエンテーションや期初面談等において周知を徹底する。また、地域創生学部で令和8年度に申請予定の数理・データサイエンス・AI「応用基礎レベル」に関連して、既存の専門科目から認定要件に相当する講義・演習の選定を行い、情報分野の学生に対する応用基礎レベル認定促進についても検討する。</p>

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コー ス	辻 文 杉山 寿美 松本 茜 谷本 昌太 森脇 弘子 山岡 雅子 神原 知佐子 岡田 玄也 辻 愛	令和7年7月19日 (土)	未定	テーマ：学生キャリア支援に向けた健康科学コースの組織的实践
				実施目的： 本コースでは、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格、栄養教諭一種免許状が取得でき、これら資格を生かした就職先として、官公署、学校、病院、大学教員、公的研究機関等がある。昨年度から、学生および教員を対象として、コースでの学びへの動機づけ、キャリアビジョンの明確化およびキャリアデザインを支援する組織的な取り組みを進めており、今年度もこの支援を継続・改善して実施する。
				キーワード： 養成する人材像、キャリアデザイン、キャリアビジョン
				実施内容： 健康科学コースの在校生および教員を対象として、本コースが養成を目指す人材像を具現化している卒業生を招き、仕事内容ややりがい、学生時代に力を入れて取り組んでおくべきことなどを講話してもらうとともに、意見交換会等を開催する。 予定講師： 病院管理栄養士1名、行政管理栄養士1名、食品衛生監視員1名、栄養教諭1名、大学教員1名、大学院・研究機関1名等
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コー ス	辻 文 鍛島 秀明 山岡 雅子	令和7年10月頃	未定	テーマ： 新規資格導入に伴う情報共有と勉強会
				実施目的： 本コースでは、令和8年度に新規の資格（健康運動実践指導者）を導入する予定である。この資格に関する勉強会（資格に関する授業内容、資格取得のメリットなど）をコース内の教員を対象に実施する。これにより、健康運動実践指導者の資格取得のメリットや管理栄養士資格との繋がりを理解するとともに、キャリア支援の取り組みを検討する。
				キーワード： 資格導入、就職支援
				実施内容： 健康科学コースの教員を対象とし、令和8年度認定に向けた申請（令和7年9月）内容について情報共有を行うとともに、資格導入に伴う授業内容の変更・改善や就職支援への新たな取り組み等について議論を行う。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 地域資源開発学科	藤田景子 村田和賀代 馬淵良太	令和7年4月～ 毎月1回程度	Teamsによるオ ンライン会議ま たは対面	テーマ： 地域資源開発学科におけるカリキュラム編成
				実施目的：当学科では、改組(2020年4月)以降カリキュラムの変更がなかったが、科目数や科目の開講年度等に偏りがあることが明らかになった。これらを是正してゆくことで、学生・教員双方の負担軽減や不利な点の解消を行うことを目的とする。ひいては、学生の学校生活や教育効果の充実につなげる。
				キーワード： カリキュラム編成
				実施内容： 対象：地域資源開発学科教員 方法：コーディネーター教員を中心にカリキュラムにおける問題点を洗い出し、学科会議等適当なタイミングで情報を共有し、意見交換する。場合によっては学科を構成する3つの系の教員らで意見をまとめる。挙げた意見を集約し、年末を目途に改正案をまとめる。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	山下泰尚	通年 毎月第2水曜 2限	対面による会議	<p>テーマ：卒業研究の指導が困難な学生に対する指導方法の検討</p> <p>実施目的： 最近、卒業研究の指導が難しい学生が増えている。そういった学生を無事卒業まで導くために、本FD活動では、コース教員間で知恵を出し合う機会を設けて対応策を練る。具体的には、学生のプライバシーに配慮しながら、教員間で各学生の状況について情報を共有し、適切な個別指導法を議論し、検討する。</p> <p>キーワード： 学生対応、研究活動、指導困難、教育力向上</p> <p>実施内容： 昨今、さまざまな理由により、研究室に來られなくなる学生や、研究室でトラブルを起こしてしまう学生が目立つようになっている。そういった学生の卒業研究指導は非常に困難になることが多い。2年次までの講義、実習では彼らの特性が目立ちにくく、研究室など小グループでの密な活動が始まって初めてそれらの特性が顕著に現れることが多い。学生間、学生-教員間でトラブルに発展するケースもあり、研究室全体に多大な影響が出る例もある。教員の多くは心理学の専門知識に乏しいため、一人だけで対応するのは困難である。そこで、このような学生を無事に卒業まで導くために、まず、各事例の情報を教員間で共有し、必要に応じて、教学課、学生相談室教員とも連携を取りながら、最適な指導法を個別に検討する。そういった情報を事例集として整理しておき、同種の事例が出た場合の参考とする。以上により、コース教員の教育力を向上する。</p> <p>個人名は出さない、各自では記録等をとらないことを原則に、プライバシーに十分配慮して以下の項目を行う。</p> <p>1) 学生が休みがちな場合 まずは、本人と連絡をとり事情を聞き、聞き取り内容によっては学生相談室にかかるように学生に指導する。本人と連絡が取れない場合は、教学課、保護者とも連携する。</p> <p>2) 学生の研究室内外の行動が予測不能な場合 研究室学生間でトラブルが発生する場合がある。そういった場合に、研究指導や生活指導を行おうとしても、トラブル発生源の学生が取り合わないこともある。そのような行動となる原因が、学生がもつ発達障害やその他の特性による例も存在するようだ。教員、教学課、学生相談室と連携して、問題が複雑になる前に、対応方法を検討する。</p>

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	松崎秀紀	通年 毎月第2水曜 2限	対面による会議	<p>テーマ： 学生に卒業研究を進める意義を考えさせる</p> <p>実施目的： 生命科学コースでは3,4年次に卒業研究を行う。しかし、卒業研究の意義、位置づけを理解しないまま研究室に配属される学生も多い。本年度は、本学の大学院生による1,2年生向けの講義を企画し、学生に早くから「研究すること」を考えさせ、研究の動機付けとする。講義では、卒業研究が、大学院進学を含めたキャリア形成にどう役立つ、あるいは役立ちそうか、大学院生目線で話をしてもらう。</p> <p>キーワード： 卒業研究、大学院生による研究紹介、ロールモデル、教育力向上</p> <p>実施内容：</p> <p>学生に卒業研究、地域課題解決研究を早くから意識させ、卒業研究を有意義に進めさせるために、本学の大学院生にお願いして、大学在学時の研究と現在の研究との関連について話していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生向けの生命環境科学基礎セミナー、2年生向けの生命科学セミナーでは、これまで、かなりの時間を割いて卒業研究について説明してきたが、学生の言動を見ると、卒業研究の意義が彼らに十分に伝わっていないように感じられる。そこで、研究についてより具体的に考えてもらうために、本年度は、本学の大学院に在籍する院生にお願いして、大学在学時の研究と現在の研究との関連についてお話しいただく。ロールモデルとなる院生の体験談は、大学院進学を含めた卒業後の進路を学生が考える格好の材料となると期待される。 ・登壇する大学院生を各研究室から推薦いただき、候補者リストを作成する。その上で、教員間で今年度の主たるテーマを議論し、そのテーマにふさわしい院生を選定し、セミナーの依頼を行う。場合によっては、外国人院生にも協力を仰げば、国際交流としてもよい試みになると考えられる。 ・各教員は、適宜、セミナーの内容の背景について自らの講義時間内で簡単な解説を加え、学生の理解を助けるように配慮する。これにより、各教員の講義のブラッシュアップにもつながり、各自の教育力の向上も図られる。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	橋本温	10/1 10/15 および 10/8 10/29 3～5 限 および 講義終了後に予 定するミーティ ング(日時未定)		<p>テーマ： 生命環境科学基礎セミナーを通じた環境科学キャリア教育への共通理解</p>
				<p>実施目的： 環境科学コースで実施されている専門キャリア教育について、教員間で共通理解を促進し、所属学生の専門教育およびキャリア指導の改善を行う。環境科学コースのキャリア教育であることから、本コースにて実施する。</p>
				<p>キーワード： 専門キャリア教育、環境科学、社会実践</p>
				<p>実施内容： オリゼミ-セミナー系講義-卒論等を通じた環境科学コース独自のキャリア教育(講義+学習の記録(ポートフォリオ)等)を実施するとともに、今年度はコース内教員での目的趣旨、内容の共有を強化し、専門教育およびキャリア指導への改善を行う。</p> <p>①生命環境科学基礎セミナーの実施 ・環境関連の企業/官公庁のご講義 ・教員—学生ディスカッション ・大学院進学を視野に入れたキャリア教育 主担当：橋本、小林、柳下、青柳</p> <p>②セミナー主担当教員以外の教員による授業参観 ・セミナー講義のディスカッション等を中心に授業参観、ディスカッション等への参加</p> <p>③終了後ミーティングの実施 ・セミナー講義の振り返り、内容と方針の共有 ・授業参観教員によるフィードバックと次年度への改善 ・昨年度後期および今年度新任教員との情報交換</p>

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部	◎青井聡美 津田哲也 小野武也 古山千佳子 今川記恵 手島 洋 (事務) 近村千穂 泉 亜矢子	①令和8年3月 初旬予定 ②日程未定	①対面（予定） ②オンライン （予定）	<p>テーマ： ①良い授業のための改善と工夫 ②医療安全対策</p>
				<p>実施目的：教員が考える「良い授業」の共通点や視点を共有し、他の教員が取り入れている実践や工夫を知ること、新たな授業のアイデアや技術を学び、保健福祉学部の教育力と質の向上を目指す。</p>
				<p>キーワード： 良い授業 教育力の向上 医療安全</p>
				<p>実施内容： テーマ① 対象：保健福祉学部5コース 助産学専攻科の教員 日時：令和8年度3月初旬予定（約100分） 方法：1.方法は対面形式とする。 2.授業公開後の全体を通しての所見から、「よい授業とは」「改善の提案」等情報提供 3.ディスカッション ①教員が考える良い授業とは ②良い授業をするための授業方法 ③各自が取り入れている具体的は教育方法の工夫の紹介 ④各自が取り入れていく授業改善案 テーマ② 対象：保健福祉学部の5コース、助産学専攻科の教員、職員およびSA等の学生 内容：各コースや附属診療センター等から依頼があった研修案内を、研修部門委員で審議し、本年度のFDテーマに沿った適切な内容と思われる研修について、学部FDと位置づけ、積極的に研修対象者に参加を促す。</p>

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	実習検討会 ◎奥田玲子 岡田ゆみ 松森直美 山中道代 井上 誠 上野陽子 沖西紀代子 加利川真理 木場しのぶ	テーマⅠ 年1回 テーマⅡ 毎月1回	テーマⅠ Teams 会議 テーマⅡ Teams 会議	<p>テーマ：</p> <p>Ⅰ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題、今年度臨地実習に関する情報共有</p> <p>Ⅱ：臨地実習教育の充実</p>
				<p>実施目的：臨地実習における学生の現状と課題を関係者間で共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る</p>
				<p>キーワード： 臨地実習、情報共有、看護教育質向上</p>
				<p>実施内容：</p> <p>テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題、今年度臨地実習に関する情報共有 実習指導担当者協議会を開催し、本学教員と実習指導担当者間で令和6年度実習の成果・課題を共有する。また、「多職種連携・協働の力を実習の場でどう育てるか」をテーマとし、グループ討議を行う。 日時：4月18日（金） 13：30～15：00</p> <p>テーマⅡ：臨地実習教育の充実 毎月の会議で各臨地実習の報告を行い、実習指導上の問題点や指導内容について情報共有および意見交換を行う。また、年間計画に基づいて以下の内容について検討し、臨地実習の充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和7年度入学生用臨地実習要綱を作成する 2. 実習施設と調整し、令和8年度実習計画案を作成する 3. 実習における感染症対策の実施と感染状況を把握し、予防対策を周知する 4. 「看護技術の卒業時到達レベルと経験録」の集計を行い、臨地実習における看護技術経験状況を把握する 5. SNSにおける個人情報取り扱いを啓発する

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	看護学コース FD担当 青井聡美	テーマⅠ 毎月1回 テーマⅡ 5月2日	テーマⅠ Teams オンライン会議 テーマⅡ 対面	<p>テーマ：Ⅰ 教員の研究力、教育力の向上を図る Ⅱ コンピテンシー基盤型教育の実現に向けて</p>
				<p>実施目的：看護大学教員に必要とされる「研究実践力」「教育力」「教員間協働力」の向上を図る</p>
				<p>キーワード：研究実践力 カリキュラム 教育力</p>
				<p>実施内容： テーマⅠ 教員の研究力、教育力の向上を図るランチディスカッション 日時：毎月1回 第3火曜日 12：15～12：45 内容：①統計の基礎と実践的な手法について ②抄読会 テーマⅡ コンピテンシー基盤型教育の実現に向けて 目的：看護学教育モデル・コア・カリキュラムで示された看護学士課程を修了した看護師として求められる756の資質・能力を取り入れた学修内容、教授方法を考える 日時：5月2日（金）9：30～11：30</p> <p><u>ディスカッションの内容</u> ①看護学コース DP と看護学教育モデル・コア・カリキュラムの「第一階層の基本的な資質と能力」「第二階層の学修目標」と対応をさせる。 ②DP に設定することができていない第1階層の基本的な資質・能力（11）がある場合、すべて設定できるようにDPの修正案を検討する。 ③第2階層の学修目標を手掛かりに、第4階層の資質・能力に基づき科目を構築する。 （領域別）</p> <p><u>タイムスケジュール</u> 9：30～9：35：開会の挨拶 研修方法の説明 9：40～10：40：グループワーク 10：40～11：00：全体共有</p>

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	教育課程検討会 青井聡美 菅井敏行 上野陽子 沖西紀代子 俵 志江 渡辺陽子 中垣和子 麻生浩司 土路生明美	毎月1回	Teams オンライン会議 または対面	<p>テーマ： ①看護学コースのカリキュラム評価 ②学修支援・卒業生アドバイザーの運用 ③国家試験対策と教員採用試験対策</p>
				<p>実施目的：看護学コースの教育内容と学生の学習成果を評価し、看護学教育の質の向上をはかる。模試後のフィードバックを通じて、個別のサポートを提供し、学生の学修支援を強化する。</p>
				<p>キーワード： カリキュラム評価、学修支援、国家試験対策</p>
				<p>実施内容： 実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム評価の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・看護学コース DP ルーブリック集計・分析（1～4年：4月，卒業前：12月） ・各入学年度の学生の推移をグラフ化し、分析する。 2. 学修支援アドバイザー（在学生・卒業生）の運用 3. 国家試験対策と教員採用試験対策 <ol style="list-style-type: none"> ①国家試験対策通信作成（年2回） ②国家試験模試後のチューター面談の依頼と学修状況が気になる学生への対応の検討 ③令和7年度看護師・保健師国家試験自己採点の集計・評価 ④教員採用試験対策 ⑤看護師・保健師国家試験対策

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	小野 武也	通年 随時、水曜他 開催	Teams オンライン	<p>テーマ：適切な学生支援のための情報収集と情報共有ならびに対応方法の検討</p> <p>実施目的：「多様な学生への支援を柔軟かつ適切に対応するため」、「国家試験やコアカリキュラムに即した科目内容を検討し、受験生に選ばれる魅力的な専門科目を設定するため」、「最新の研究知見をふまえた専門教育の充実を図るため」</p> <p>キーワード： 学生支援、国家試験、教育実践</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「適切な支援のための学生状況の把握と共有」について コース会議での報告を通して支援や配慮が必要な学生を把握し対応を協議する。</p> <p>(2) 「臨床実習の適切な運営に関する状況把握と共有」 臨床実習では臨床実習指導者と教員が連携して学生の実習状況を共有し、円滑な実習が実施できるように支援する。</p> <p>(3) 「国家試験に関する学生の状況把握と学習支援」 国家試験模試結果の共有や国家試験対策講義、個別支援等に活用し、コアカリキュラムに沿った講義内容へ洗練する。</p> <p>(4) 「新カリキュラムに向けた魅力ある専門科目の設定」について 担当科目の教授法の実践例紹介を通して、座学・演習科目間の関係を図る。さらに、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化も継続する。</p> <p>(5) 「各教員の教育・研究領域の紹介」について 各教員の教育・研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することで、教育研究能力の向上を図る。コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを実施する。</p> <p>備考) 個人情報等を含む内容は、非公開とする。</p>

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学コ ース	古山千佳子	テーマⅠ：コー ス会議（毎月 第1, 3水曜日） テーマⅡ：年6 回（5/21, 6/4, 7/16, 10/15, 1/21, 2/18 : 12 : 30-13 : 00	4102 会議室	テーマⅠ：学生支援の検討 テーマⅡ：教育理念と授業内容の共有
				実施目的：テーマⅠ：学生の情報を共有し，指導・援助についてコース内のコンセンサスを図る。 テーマⅡ：授業および研究内容を教員間で共有し，教育の質の向上を目指す。
				キーワード： 学生指導，情報共有，教育の質
				実施内容： テーマⅠ：コース会議にて学生情報の共有 テーマⅡ： ① 5月21日（吉川）SAP（Structured Academic Portfolio）の紹介 ② 6月4日（岩崎）研究および授業紹介 ③ 7月16日（山下）研究および授業紹介 ④ 10月15日（4年チューター）国家試験対策，国家試験の学習に関する学生情報の共有 ⑤ 1月21日（全教員）授業ピアレビュー（参観・公開）の感想および情報共有 2月18日（1-4年チューター）R7年度 学生指導の総括

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	津田 哲也 今川 記恵	令和7年4月 ～令和8年3月 (年5回程度)	三原キャンパス 内会議室などで 対面で、 あるいは、 Teams 上にて オンラインで、 実施	<p>テーマ：年間を通じたコースでの教育改善活動を目的とし、併せて研究活動、臨床および地域貢献活動の活性化を図る</p> <p>実施目的：①教育の質の向上、②教育の成果に即したカリキュラム改善、③教員の研究・臨床能力の向上および研究・臨床活動の活性化</p> <p>キーワード：教育の改善、研究・臨床活動情報共有、伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <p>①教育の質の向上を目的として、各教員が行っている教育活動、臨床および研究、地域における活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。</p> <p>②教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>③本活動を通し、教員の研究・臨床能力の向上と研究・臨床活動の活性化を促進させる。</p> <p>以上の内容について、各教員から話題提供をし、情報共有、意見交換等する。</p> <p>1回/1～2ヶ月程度実施予定。</p>

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 人間福祉学コース	手島 洋	令和7年10月～ 3月予定	未定	テーマ： 実習教育における実習指導者と教員の連携・協働の促進 ・ソーシャルワークの実践力の学生への指導
				実施目的： ソーシャルワーク実習及び精神保健福祉実習において、大学での実習指導と現場での実習指導の連続性を向上し、実習教育の効果を向上することを目的とする。
				キーワード： 実習教育、実習指導、連携
				実施内容： 対象：人間福祉学コース教員 日時：①令和7年10月～令和8年2月 ②令和8年度3月初旬予定 方法：1. ソーシャルワーク実習及び精神保健福祉実習を依頼している実習先の実習指導者に対し、大学の担当教員と実習指導の際に連携や協働を図ることの必要性和課題に関するアンケート調査を行う。(①) 2. コース内の担当教員に対しても実習指導者との連携や協働の工夫をしている点について、アンケート調査を行う。(①) 3. 実習指導者と教員へのそれぞれのアンケート調査の結果をまとめ、その内容をもとに実習運営において大学側でできる連携や協働に関する改善点を協議する。(②) 4. 協議結果を報告書にまとめ、アンケートに回答した実習指導者に報告する。

令和7年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
助産学専攻科	奥山 葉子 金川 景子 村上 杏里	令和7年4月～ 令和8年3月 (助産学実習期 間を除き月に1 回程度開催)	三原キャンパス 4315 研究室	テーマ：教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み
				実施目的：学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討し実践に繋げる。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。
				キーワード： シミュレーション教育、客観的臨床能力試験：OSCE
				実施内容： アフターコロナや少子化等、周産期に関する社会情勢の急激な変化に伴い、助産師の役割も複雑化している。助産学専攻科では、自立・自律した助産師として複雑化した諸問題への対応能力を養うため、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしている。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討するとともに、具体的な評価方法を検討・実践する必要がある。 これらをふまえ、今年度、助産学専攻科では、以下の活動を行う。 (1) 教育の質の向上および学生の学修状況を把握するため、各教員が行っている教育活動の共有・改善に向けての検討を行う。 ① 入学時の学生の習熟度（プレテスト）と評価について ② タスク・トレーニングの検討と評価について ③ 妊娠・分娩・産褥・新生児 各期のシチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討 ④ シミュレーション教育後の実習での学び方（7/24） ⑤ 女性のライフステージに沿ったシチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討 (2) 教員が取り組んでいる研究、地域における活動、受講した研修内容について共有する。 以上を1回/1～2ヶ月程度実施する。